



としょかん 図書館たより



瑞穂台小学校 / 令和7年1月号(2025年)

あけましておめでとうございます。今年も、みなさんの学習や読書支援に役立つ図書室をめざしていこうと思います。よろしくお願ひします。

今年(ことし)は、巳年(みどし) (へび年)です。へびが登場する神話とお正月らしい本を紹介hします。

『やまたのおろち』 羽仁進/文 岩崎書店 絵本/ハ

スサノオノミコトが、八つのあたまを持つやまたのおろち(大蛇)をやっつける神話です。

『おもちのきもち』 かがくいひろし/作 講談社 絵本/カ

かかいう わたくしは かがみもちとよばれ
とこのまにかざられ、いまのところ だいじにされて
おりますが、いつなんどき たべられることやら。
ああおそろしや。おもしろーいおもちのおはなしです。



蔵書点検



1月14日(火)～1月27日(月)

蔵書点検を行います。その期間は、
図書室に入ること、貸出し返却
業務もできません。資料の貸出しは

1月10日までにお願ひします。

1月8・9・10日は3冊貸出し



おしらせ!

必読書の終了者はおみくじがひけます。

1月28日～業間・昼休み・クラス利用時に、図書室で図書カードに終了者のドラえもんシールが貼ってある人はおみくじがひけます。カードを提示しておみくじで運だめしをしましょう(1回だけ)。プラス1冊券を、大吉は2枚としおり・吉は2枚・小吉は1枚プレゼントします。

先生のおすすめの本

須田 敦子先生 『ココロ屋』

梨屋アエリ/作 文研ブックランド 913/ナ

強いココロ、弱いココロ、ふわふわしたココロ…。ココロ屋にはいろいろなココロが並んでいます。

主人公のひろきは「みんなにすかれるような」ココロがほしくて、いろいろなココロを自分のココロと入れ替えます。

でも、どれもきょくたんで…。みなさんならどんなココロと入れ替えたいですか?ひろきはどんなココロにしようかと決めるのでしょうか…。

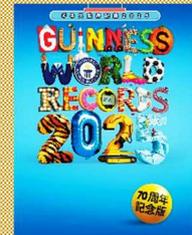


司書のおすすめの本 絵本/ハ

『神社のえほん』 羽尻利門/作/あすなろ書房
神社についてのあれこれが、この1冊に!



あたらしく入った本
『ギネス世界記録2025』
グレンディ/編
KADOKAWA 03/グ
禁帯出の本です。





給食で
愉快だ
宇都宮

みずほだいしょうがっこうきゅうしょくしゅうかん
瑞穂台小学校給食週間(1月20日~24日)

いっぱい食べて元気な体をつくりましょう。



食育に関する本

『しょうたとなっとう』

ヘルシーせんたい『ダイズレンジャー』『伝統の和食から現代の

WASHOKU』

星川ひろ子・星川治雄/写真・文
ポプラ社 61/ホ
しょうたは なっとうが だいき
らいです。…そして おしいちゃん
とだいずをそだてます。すると…



やぎたみこ/作 講談社 絵本/ヤ
時代劇絵本。いそらのくにが舞台で
す。あたらしい殿様から、だいずきんしれ
いがだされました。そのおふれをダイズ
レンジャーたちは
やめさせ、ひとびと
の健康と平和を守れ
るでしょうか。



服部幸應/監修 あすなろ書房
38/ハ

子どもたちの健全な心と身体を培
う基本となる、ニッポンの食育・食
文化を写真とイラストでわかりやすく
紹介しています。

パート1伝統的な和食

パート2懐石料理って?

パート3現代のWASHOKUとは

の三部構成です。



かんたんに作れるお料理が載っています。作ってみましょう。



『ごちそうさま』絵本/ア
accototo/作 大日本図書
じいじとばあばがつくった

やさいとたまごでオムライスを
つくりました。



『とびきりおいしい
おうちごはん』

野村友里/著 小学館

「自分で食べるものを自分で
つくれる」ってすごいこと。

給食の歴史

1889年日本で最初の給食と言われている
のは山形県の小学校で出されたもの。

メニューは、おにぎり、焼き魚、漬物でした。

年号は、明治。

社会全体のできごとは、大日本帝国憲法が発表されました。



学研まんががよくわかるシリーズ

『給食のひみつ』

たまだまさお/まんが
学研パブリッシング
59/カ



うつのみやがく
宇都宮学



このおはなし、『つるのおんがえし』
に似ていますね。
並行読書・家
読みにむかし
ばなしを
読んでみま
しょう。



うつのみや みんな
宇都宮の民話

『石になった白蛇』 埴田

今から八百年くらい昔。埴田村の庄屋の息子は、隣の村に行く
途中白蛇の子どもが村のこどもらにいじめられているのを助けてや
りました。その帰り道、同じところで今度は女の子が、親にはぐ
れて泣いていたので、そのあとずっとめんどうをみました。

それから災難に遭うたびに大蛇に助けられた息子は、これは
みんな仏さまが守ってくれたと思い、本願寺という寺を建てました。
やがて息子はめんどうをみていた娘が大人になり結婚し、男の子が
産まれました。しかし何か悩んでる娘は、熱心に毎日寺にお参りに
行くので、ある日息子は後をついていくと、説法を聞いている娘の
姿が大蛇に変わっていくのを見てしまいました。自分のほんとうの
姿をみられた娘は、以前助けてもらった白蛇だと言い、これからも
人間の姿でいたいとねがっていたのです。そして真の心の大切さを
悟った娘は悲しみのあまりその場で蛇の姿の石になってしまいました。
その後息子と男の子は出家して、白蛇の石を供養し続けました。

(うつのみやの民話 かまどの会より引用。38/ト)



うつのみや のうさんぶつ
宇都宮の農産物

1月の旬
にら

1月の花言葉

にら
星への願い・多幸

